

各関係機関長 様

熊本県農林水産部長

病虫害発生予察警報について（送付）

このことについて、令和元年度（2019年度）病虫害発生予察警報第1号を公表しましたので、送付します。

警 報

令和元年度（2019年度）病虫害発生予察警報第1号

農作物名 早植え水稻及び普通期水稻
病虫害名 トビイロウンカ

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 9月以降
- 3 発生程度 多
- 4 警報発表の根拠
 - (1) 早植え水稻及び普通期水稻（6月上旬までの移植）については令和元年（2019年）7月18日付け、普通期水稻（6月中旬以降の移植）については7月25日付けで注意報を発表した。その後も寄生密度が急激に高まり、坪枯れが多発した平成25年（2013年）より多くなっている（図1、2）。
 - (2) 9月2日に調査を行った早植え水稻及び普通期水稻（6月上旬までの移植）12地点、すべてのほ場で発生がみられた。10株当たり成幼虫数は341.8頭で、過去同時期に調査を行った4か年（平成21、24、25、26年）の中で最も多かった（表1、図1）。また、約8割のほ場で要防除水準（収穫30日前：30頭/10株）を超えていた。
 - (3) 普通期水稻（6月中旬以降の移植）34地点の10株当たり成幼虫数は27.1頭（平年10.8頭）で平年より多く、過去同時期に調査を行った9か年の中で2番目に多かった。発生ほ場率は91.2%（平年64.1%）で平年より高かった（表1、図2）。また、約2割のほ場で要防除水準を超えていた。
 - (4) 福岡管区气象台が8月29日に発表した九州北部地方1か月予報によると、9月の気温は平年並か高い予想であり、トビイロウンカの増殖に好適な条件である。
- 5 防除対策
 - (1) 発生状況を確認し、要防除水準（収穫30日前：30頭/10株）を超える場合は、直ちに防除を行う。なお、トビイロウンカは、水稻の株元近くに寄生しているため、粉剤及び液剤は、株元に付着するように散布する。
 - (2) 早植え水稻では刈り遅れがないように適期に収穫する。
 - (3) 早植え水稻及び普通期水稻（6月上旬までの移植）では、8月下旬以降坪枯れが確認されている。坪枯れが発生し始めたら、可能な限り収穫を早め、坪枯れに伴う減収の拡大を防ぐ。収穫までに期間がある場合は、直ちに防除を行う。

- (4) 収穫直近の水稻で防除を行う際は、特に収穫前使用日数を注意する。
- (5) 短翅雌成虫が多いほ場では、防除後の発生状況を確認し、効果が不十分な場合は追加防除を行う。
- (6) 天候不順により粉剤及び液剤の散布が困難な場合は、粒剤による防除を行う。粒剤を使用する場合は、粒剤が水面に到達するように散布し、4～5日間湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
- (7) トビイロウンカは、イミダクロプリド剤（アドマイヤー等）やBPMC剤（バッサ等）に対する感受性が低下している（平成30年3月14日付技術情報第14号<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H29/yosatu/180314gijyutu.pdf>参照）ので、防除に使用する薬剤の選定には注意する。
- (8) 現在発生が少ないほ場でも、今後の気象はトビイロウンカの増殖に好適で、増加する可能性があるため、ほ場での発生状況を確認し、要防除水準を超える場合は、直ちに防除を行う。
- (9) 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では、多発する傾向があるので注意する。
- (10) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

表1 トビイロウンカの発生状況
10株当たり虫数

地点名	成虫				幼虫			計	
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢		
早植 え・ 普 通 期 注2)	山鹿市鹿北1	21.3	66.7	0	2.7	77.3	117.3	133.3	418.7
	山鹿市鹿北2	2.7	2.7	0	0	149.3	280.0	221.3	656.0
	山鹿市菊鹿1	0.7	0.3	0.3	0.7	1.7	3.3	7.7	14.7
	山鹿市菊鹿2	0	1.0	0	0.3	0	4.3	3.3	9.0
	甲佐町早川1	4.7	4.7	2.7	12.7	2.0	14.7	18.0	59.3
	甲佐町早川2	0	1.0	0	2.0	1.3	4.0	2.3	10.7
	芦北町大野1	3.3	13.3	1.3	2.7	0.7	0.7	64.7	86.7
	芦北町大野2	6.7	15.3	2.0	19.3	2.7	1.3	51.3	98.7
	あさぎり町1	96.0	122.7	72.0	58.7	405.3	229.3	58.7	1042.7
	あさぎり町2	96.0	189.3	88.0	197.3	424.0	248.0	144.0	1386.7
	錦町1	2.7	4.0	0.7	9.3	4.0	10.0	22.0	52.7
	錦町2	13.3	41.3	21.3	69.3	21.3	42.7	56.0	265.3
平均(12地点)	20.6	38.5	15.7	31.3	90.8	79.6	65.2		
	成虫 計			106.1	幼虫 計		235.7		
計(成虫・幼虫)	341.8								
平年^{注5)}	127.2								
発生ほ場率	100.0%								
平年の発生ほ場率^{注5)}	97.5%								

地点名	成虫				幼虫			計
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齡	中齡	若齡	
熊本市画図1	0	0.7	0	0.3	0.3	6.7	17.3	25.3
熊本市画図2	0	0	0	0	0	0	1.0	1.0
熊本市中無田1	0	0.3	0	0.3	1.0	2.7	7.0	11.3
熊本市中無田2	0	0.7	0	0.3	0.3	6.7	17.3	25.3
熊本市富合町新1	0	0.3	0	0	0	0.3	0.3	1.0
熊本市富合町新2	0	0.7	0	0	0	0	0.3	1.0
宇城市松橋町1	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3
宇城市松橋町2	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市北牟田1	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市北牟田2	0.7	0.3	0	0.3	0	1.7	0	3.0
玉名市横島1	0	0.7	0.3	2.7	0	7.7	7.7	19.0
玉名市横島2	0.7	0.3	0	0	0.3	2.0	2.3	5.7
山鹿市南島1	0	0.3	0	0	0	0	0.7	1.0
山鹿市南島2	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市鹿本1	0.3	2.0	1.3	0.7	0	5.7	23.3	33.3
山鹿市鹿本2	0	0.7	0	0	0	0.7	0.7	2.0
菊池市赤星1	0	0.3	0	1.0	0	1.3	1.0	3.7
菊池市赤星2	0.3	1.0	1.7	0.3	1.3	8.0	7.3	20.0
注3) 大津町新1	0	3.7	0.3	2.0	0.3	2.3	4.0	12.7
大津町新2	0.3	0	0	0	0	0	0.3	0.7
嘉島町下仲間1	0.7	0.7	0.3	0	0	0	0	1.7
嘉島町下仲間2	1.0	0	0	0	0	0	0	1.0
甲佐町早川1	0.7	3.7	1.7	6.0	4.0	5.7	24.7	46.3
甲佐町早川2	2.0	1.0	0.3	0.3	1.0	5.7	8.0	18.3
八代市高田1	1.0	1.3	2.0	8.3	0.3	2.3	48.3	63.7
八代市高田2	2.7	4.0	2.0	19.3	0	2.7	56.0	86.7
氷川町若洲1	0	0.3	0	0.3	0	0	0.3	1.0
氷川町若洲2	0.7	0.3	0	0.3	0	0.7	1.0	3.0
芦北町花岡1	2.7	6.0	8.0	10.0	10.0	53.3	68.0	158.0
芦北町花岡2	0.3	0.3	1.0	0.3	0.3	2.3	3.0	7.7
芦北町市野瀬1	14.7	10.7	17.3	72.0	16.0	65.3	78.7	274.7
芦北町市野瀬2	10.7	8.0	6.7	15.3	1.3	4.7	21.3	68.0
人吉市鬼木町1	0	2.7	0	0	0	4.3	3.7	10.7
人吉市鬼木町2	0	1.7	0	1.7	0.3	2.7	7.3	13.7
平均(34地点)	1.2	1.6	1.3	4.2	1.1	5.7	12.1	
	成虫 計			8.2	幼虫 計		18.9	
計(成虫・幼虫)	27.1							
平年	10.8							
発生ほ場率	91.2%							
平年の発生ほ場率	64.1%							

注1) 1ほ場につき、30株調査。

注2) 6月上旬までの移植。

注3) 6月中旬以降の移植。

注4) 計はラウンドの関係で一致しない。

注5) 早植え・普通期(6月上旬までの移植)の平年は4か年(平成21, 24, 25, 26年)の平均。

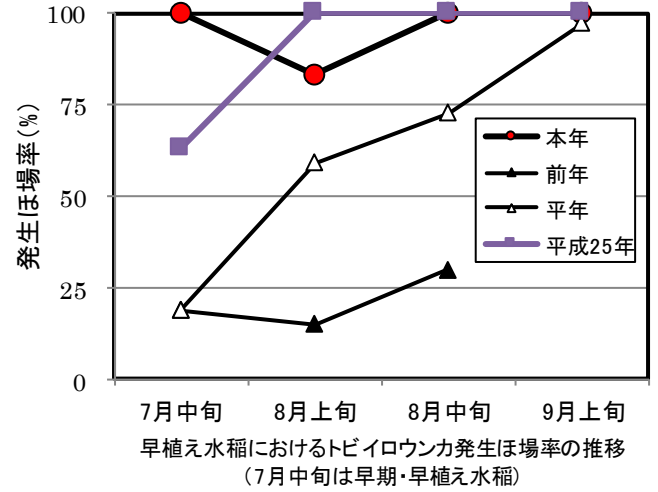
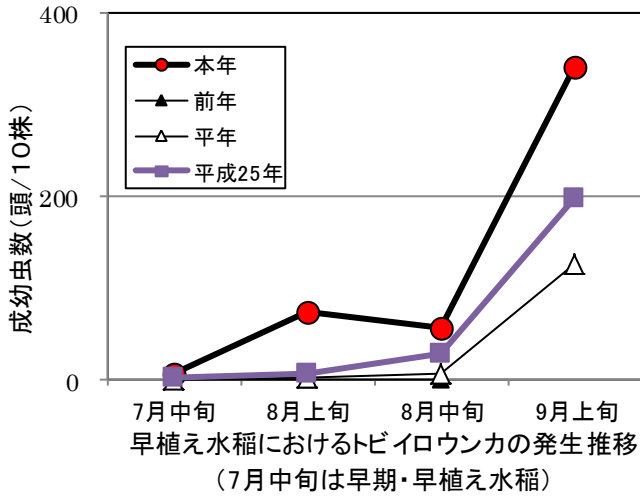


図1 早植え水稻および普通期水稻（6月上旬までの移植）での発生推移

（左：成幼虫数、右：発生ほ場率の推移）

注1）8月上旬の平年値は平成23年を除く9か年平均。

注2）9月上旬の平年値は4か年（平成21, 24, 25, 26年）の平均。

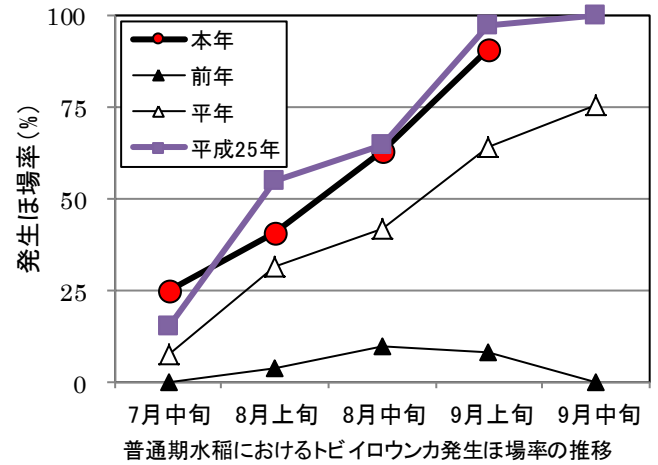
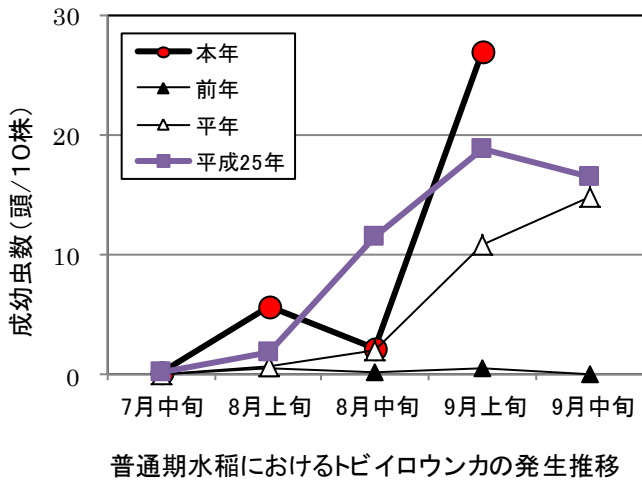


図2 普通期水稻（6月中旬以降の移植）での発生推移

（左：成幼虫数、右：発生ほ場率の推移）

注1）8月上旬、9月上旬の平年値は平成23年を除く9か年平均。



写真1 イネの株元に寄生する
トビイロウンカ



写真2 トビイロウンカによる坪枯れ
※令和元年（2019年）9月2日撮影

- 熊本県農林水産部生産経営局
農業技術課植物防疫・農薬監視班
担当：長谷川・山田 TEL：096-333-2381
- 熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター生産環境研究所
病虫害研究室予察指導係)
担当：坂本・作本 TEL：096-248-6490